

***Helicobacter pylori* 感染と胃癌 のリスク**

Helicobacter pylori infection and
the risk of gastric carcinoma:
Parsonnet J, et al (N Engl J Med
325: 1127-1131, 1991)

Helicobacter pylori (HP) の感染
が胃癌のリスクを増加させるか否か
をケース・コントロールのコホート
調査により検討した。

K 多項目健診プログラムでは健
診時の血清が保存されている。1964
～1969 年に受診した 128,992 名のう
ちで、1989 年までに 246 名が胃悪
性腫瘍と診断された。測定から診断
までは平均 14.2 年である。うち 200
名を無作為に選び、健診時年齢(平
均 53.7 歳)、性(女性 34.4%)、人種、
健診を受けた場所および日時がマッ

チしたペアを作り、そのうちで両者
で保存血清が得られた 186 組につい
て、ELISA 法により HP に対する
IgG 抗体を測定した。測定法の感
度は 91%、特異性は 98%である。

噴門部を除いた胃腺癌は 109 例あ
り、HP 血清反応陽性は胃癌 84.4%、
対照例では 60.6%で、odds 比(95%
信頼限界 1.8～7.3)で胃癌例に HP
陽性率が高かった。胃癌を腸型、び
まん型に分別すると、前者では
odds 比 3.1、後者では 8.0 で HP 陽
性率が高かった。悪性リンパ腫でも
odds 比 4.0 で HP 陽性率が高かつ
たが、噴門部腺癌では odds 比 0.8
で差はなかった。性および人種で分
別すると、女性の胃癌例では対照に
比して odds 比 18.0 で HP 陽性率が
特に高く、性別では黒人の胃癌例で
odds 比 9.0 と HP 陽性率が高かつ

た。多変量解析によると、HP 感染
と胃手術は独立した胃癌関連因子で
あったが、消化性潰瘍の既往は胃癌
発生とマイナスの相関が認められ
た。

以上から、HP 感染は特に女性お
よび黒人で胃癌のハイリスク因子で
ある。HP 感染による胃粘膜の慢性
炎症持続の結果、細胞交代の亢進、
炎症による内因性代謝産物による
DNA の障害や突然変異が関連する
と推定される。血清 HP 抗体でスク
リーニングすることで胃癌のハイリ
スク群に対して食事指導などの予防
措置ができる可能性がある。

【訳者コメント】 13 万人のドック
検査時血清を 10 年以上保存してい
ることに感心する。

(関東通信病院消化器内科

関根 真理 抄)